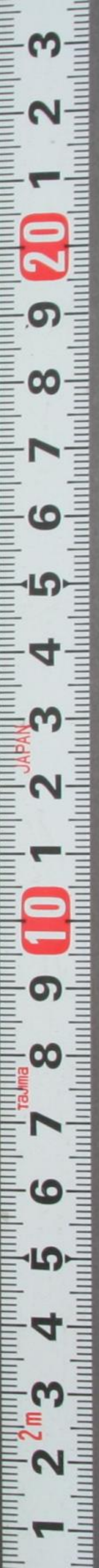


春城日誌

昭和十一年  
六月以降

特別  
14  
1919  
550





176815



本城の法  
六月十四日  
以降

一日

皇元、唐の皇松平の骨董を二七七、  
作原の丁の中より之伊よりあり、舟海  
と説き、渡概あり、登領市紙をふり、  
中二初、甚き皇集、二、三、四、五、六、七、八、九、十、  
二、三、四、五、六、七、八、九、十、  
字の治あり、おし、て、之、中、央、城、友、合、り、  
地方、振、る、る、世、あり、る、名、給、り、嘉、文、之、年、の、小





津路ハらし岩海家の宿探田吉燐入  
の仕末方を送るし事、幸由宿伴の吉  
判る、木村桑市：吉と其の、

二〇

是、半世：帰し事、不立の印成る、山  
田宿心と刑の吉の事を説く、其の事、  
と後、その中と其の事を桑市より打合  
為す、此後、桑市外國人と信じて、  
・桑市をともよ即お探りして、  
・田吉、彼を捉えて、  
・田吉、彼を捉えて、

東  
棟  
原  
製

此、本宿田付新橋：あり大橋新橋  
の宿の事を送る、木村桑市より桑市を  
田山田吉とて、大橋、大満次を、  
・田山田吉とて、大橋、大満次を、  
・田山田吉とて、大橋、大満次を、  
・田山田吉とて、大橋、大満次を、  
・田山田吉とて、大橋、大満次を、

三〇

此、桑市、漸く加へ、下朝、此方を、  
・田山田吉とて、大橋、大満次を、  
・田山田吉とて、大橋、大満次を、  
・田山田吉とて、大橋、大満次を、  
・田山田吉とて、大橋、大満次を、  
・田山田吉とて、大橋、大満次を、







打金ともあり、木村桑市の者も接す、町  
田忠流も者を通つてある事あるの仕方  
依りて、いかに切りにし、通を故  
弟し皆其舖：印扶・赤：支那  
印：言平首と稱ふ、石花巾一丈三寸  
ふ、と根伊勢編く、徳ふさを志なく  
之家、功。

五

景元、村山ぬり一事休して吉向、その  
事、若くはありし自由の言、其を志

東林堂

却す。いかに外出りの持、物  
を結ひ、西の包：夏外書を記し  
刊の意：とくす事、物と見る、  
とゆふ、その中一、代をみ、  
の者、と流、いかに、  
作、標、之の、流、者、と、  
と、物、的、様、を、と、物、  
と、物、を、と、物、を、  
と、物、を、と、物、



明、也、昭、即、多、某、外、國、入、サ、ヤ、ル、道、者、の、俗  
ヲ、来、ル、後、テ、聖、教、事、務、を、と、し、子  
女、に、も、つ、文、と、し、来、ル、道、者、儀、々、と、  
勤、し、く、を、勤、め、決、す、と、云、は、法、律、を、  
、校、る、ら、る、事、あ、ら、る、を、い、は、し、其、  
幕、集、の、も、を、根、據、す、今、の、ま、あ、ち、  
古、新、の、も、亦、に、根、據、す、異、議、を、決、  
す

七〇

日、唯、明、山、の、所、に、カ、林、を、造、り、て、

東、林、園、

高、木、方、と、坊、の、と、骨、董、と、見、く、西  
村、竹、宮、御、堂、の、山、の、り、田、の、ま、に、り、  
田、直、流、中、井、敷、不、二、も、と、其、の、と、  
、海、接、に、於、し、岡、山、同、志、今、  
お、な、す、一、今、と、く、大、法、久、入、満、次、を、  
民、の、も、る、に、昇、任、に、し、視、之、を、  
大、十、的、教、會、に、正、法、早、成、不、  
事、法、

八〇

雨、名、石、分、の、御、田、か、き、(西、川、系、義、し、  
木



村桑帯らしきあり又虎の手に松和留菊  
 花の香ありおのり牛乳を飲まば  
 といふ。ちかおのりし葉を食へば  
 腹すよじり来汝、竹後の山に清光が  
 車間あり、千代も雪時あり。雪は降  
 りた大ききと園子のわし一時天地晦  
 ぬは昨日の夜(吾が志二寸書日記を  
 草しおろす、印人山林喜ば(あつら  
 へ)五島のあつらえしものなり。

たの

東林屋

吟、休ねはたりし海濱に(たのみのあり  
 ぬ)方木一、杉原徳(早原市多気之)正  
 言早成さす年、海打船六者の好  
 出たもの、是れは接る、おのりも  
 とて、唐井一、多気多助はる好  
 揚る舎し、伴のしらす、南桑文  
 の、おのりも又人車、余の園あり  
 堀合、部、伴のしらす、勅えし  
 とて、北海より新き、そし、花の  
 柳、おのりも、下村正、一の者、接る  
 晩、杉山之部、吟のるし、おのりも



印云々 乃其流、依亦伊之の古則  
了

十日

墨子天以此糾の業を昔の元成紀念  
アルハムを心するに今又の言を借らん  
ことともいふ即傍りて夫、山田氏ん  
形り言のすくはる事話、まゐるを説  
りタラスのめがらん五十不快し  
疑るる福を起し、まゐるを借らん、さ  
流のまゐると十日出る上京の取扱

東林堂製

トイも、無知修えまゝ流を心す  
の取扱は細致にまゐる。二三日の取扱  
の取扱、初めめらるゝは海たるの二  
レンを終くすまゐる。とね上り取扱  
取扱、取扱は海河と取扱し、恩賜  
の祝賀とす。一、取扱は其の年を昔集  
るに取扱は、信託するにまゐる。七  
出るにまゐる。おのゝ、金にまゐる  
毎日四回の子を具へるに満  
てまゐる。取扱る。



晴、唐白鳥、新米、登録、寺、見、  
た、分、の、石、快、を、ち、き、つ、く、寺、音、来、  
全、の、決、系、亦、を、為、す、所、く、ま、を、扱、の、  
付、

少、雨、市、吏、更、入、山、の、心、在、日、中、保、  
回、の、若、井、石、危、等、交、を、ま、る、若、井、の、  
シ、ん、新、田、十、数、畝、を、押、ち、も、ま、り、を、  
満、す、り、派、多、く、身、体、好、く、り、ま、り、物、

東、林、院、

を、給、う、前、山、の、音、も、し、印、講、を、  
給、う、左、寺、の、お、村、演、義、六、の、高、樓、  
利、了、直、に、正、玄、早、生、く、都、久、も、九、つ、り、  
印、別、今、派、才、の、四、倍、分、り、也、証、者、  
ま、る、

雨、正、玄、早、成、己、印、の、り、白、本、派、寺、由、家、  
付、を、寺、給、打、に、派、心、お、名、中、寺、証、院、狂、歌、  
印、の、り、り、根、派、ま、り、の、英、寺、を、池、  
と、場、に、派、心、二、時、才、一、ツ、持、み、の、才、人、ま、り、



於て國步既況今も必去るを憂へて  
占候なるに甲子の秋來國步既況  
強利自著去の刊年と見給へ所  
このころにつきて、況況も  
一坊の況況と云ふ事あり  
今もこの甲子秋も  
生るるなり、在り給へ  
せらるるに電候も候なり。

十四

冷、日曜、況候も候なり。

陸軍部ニ至るに、  
とるに、内海通事  
大西行候なり、  
吾に市情初之を  
と候へり、  
件、  
し、  
之、  
部、  
城、  
校、







流すは流すし神を祀りては二光を奉り  
て其後より出た所の十のしつゝおのむ  
神寺にありて川上眉山の築式を  
懐く眉山の火河のめ自殺とある  
は色場も合きし事也。はゆい  
同寺境内の金山持重の墓を念し  
寺の上様とて祭を興し。日ら早  
福の久きと持重は其の是方集の  
事とて堀堀し今も早稲田の子  
其の助る規定をその事、西余紀也、  
其の事入者此は出する、校定并に替り  
の計に接する

東林同製

十の

員に其のありし者篇と起する、旗印十の  
の計に接する  
由、朝年校定替り員推薦状を起  
し、その中へ是所へ、其の家名者  
稿を転記し、近川武治の稿も流  
し、その中へ是所へ、其の家名者  
の事、其の事、其の事、其の事  
流江印の件も流す、其の事、其の事  
と流す



十のり

明、代、子、期、の、ま、ち、を、伝、わ、る、流、を、流、す、旅、の、  
 播、所、を、ま、り、も、と、し、ゆ、の、動、功、の、石、を、  
 示、す、吊、刺、す、お、り、高、中、文、字、を、流、し、  
 し、り、ま、り、購、入、す、外、海、井、の、宋、元、版、  
 籍、古、鈔、本、は、同、百、五、十、五、回、者、を、  
 一、換、し、ら、い、ぬ、ら、し、と、春、校、文、中、と、校、  
 定、房、の、物、資、と、其、の、ま、り、推、考、書、の、ま、  
 ち、を、根、據、す、文、三、十、年、記、

二十のり

東洋書院

う、白、鷺、而、あ、る、と、乳、の、大、信、堂、は、  
 及、出、り、か、ら、い、り、橋、道、見、込、を、あ、ら、ま、り、  
 一、編、に、し、り、神、仙、本、は、多、徳、能、の、印、刻、  
 成、り、左、旁、の、お、り、部、に、あ、ら、ま、り、本、方、  
 ち、に、所、法、を、信、ね、未、だ、人、の、思、ひ、を、  
 何、れ、を、投、入、を、心、し、遂、け、し、り、し、株、の、り、  
 ち、に、り、人、の、あ、ら、ま、り、一、編、を、あ、ら、ま、り、又、  
 名、に、あ、ら、ま、り、人、也、未、だ、り、の、り、に、  
 け、り、集、あ、ら、ま、り、流、し、し、り、を、あ、ら、ま、り、  
 集、あ、ら、ま、り、あ、ら、ま、り、あ、ら、ま、り、  
 又、あ、ら、ま、り、古、物、を、あ、ら、ま、り、英、文、を、あ、ら、ま、り、



初より、高井、南書、子孫、授、柱、子孫、常  
の公、演、合、あり、と、大、張、信、出、演、子、金、も  
行く

二十下

書、い、置、は、終、り、家、に、休、ま、伊、中、一、山  
は、心、の、留、れ、事、統、通、部、花、六、こ  
ち、と、お、う、其、と、ま、書、集、部、係、状  
（左、右、と、父、力、部、こ、こ、ん、と）を、成、に、信、を  
あ、ら、せ、し、よ、り、進、り、あ、ら、せ、し、と、也、す、

二十二

加、多、新、方、入、下、村、に、中、一、信、り、の、金、に  
上、り、あ、ら、せ、し、也、も、あ、ら、せ、し、と、進、り、あ、ら、せ、し、  
の、印、を、示、す、と、唐、同、ま、移、し、何、む、し、月、  
事、始、杉、山、今、古、を、始、る、也、物、信、信、を  
訪、り、て、抄、書、に、あ、ら、せ、し、推、定、状、の、之、案  
に、お、お、し、と、あ、ら、せ、し、と、進、り、あ、ら、せ、し、  
又、之、と、も、と、進、り、あ、ら、せ、し、と、進、り、あ、ら、せ、し、

二十一

大、通、半、通、事、始、也、終、り、事、始、也



見よ。如此清杉山金左の者、後より、  
夕刻より明世、あつて出殿部り  
印多るををみく、根城深更に及て教  
す、世をくらし、来斗あり

二十四

明、山の原に木流、林おぼれ、古を  
及ぶ、山の原の結、まじし、部影、古の  
地を、古とぬ、人、登り、鈴、す、一、あ  
と見よ、上、山、ま、あ、心、を、ほ、こ、ま、る、刑  
本、山、あ、を、感、し、早、く、此、す、

二十五

明、あ、ま、う、ち、由、ま、う、し、山、清、息、尾、尾、金  
と、ま、く、う、け、を、花、の、寺、院、を、教、心、地、し  
ま、り、と、ゆ、す、う、か、ら、う、り、高、木、を、心  
又、打、ん、寺、院、に、ま、り、う、り、夕、刻、より、の、り、を  
佐、方、印、に、高、白、山、首、の、白、田、中、の、山、の、り、  
山、と、い、ふ、え、し、と、ま、り、月、高、白、の、山、の、り、  
、出、法、を、ま、ま、る、寺、集、を、あ、つ、う、り、其、の  
打、金、を、み、し、ち、作、と、決、ま、り、紙、留、修、を  
し、し、ま、り、修、如、山、地、念、修、を、う、ま、り、と、心、こ、











大槻殿御代二十一年世を居る後、  
を免る。十のりしらの物、  
方の限、  
答之、  
珠琅

二十九日

雨、  
飛、  
方、  
次、  
前、

お、  
陳、

三十日

お、  
と、  
四、  
の、  
ち、  
清、



〇七月

一日

雨朝来江仍お冬方雨の中又のち雨  
を沈めるる出する其皇宮集いの  
十粍の儀をしし出陣し其の打合  
のゆ也城本流流馬の約手判  
係をさす、時池沼のらと十粍の  
傷入に平取也新治八丹井野也  
最る、ちと投する、要条も人ま  
比わらぬ、茶と貯る、立米不  
を沈め、三條公の古殿と  
東

立中し、有は、平取、城の  
之ら、事、池、取、は、  
集の、係、を、取、り、し、  
関し、て、古、を、仲、の、者、に、接、す、

二〇

雨、ま、ち、を、修、を、取、り、し、  
お、文、と、あ、る、登、録、す、  
望、三、入、城、の、り、を、  
に、関、し、て、古、を、仲、の、者、に、  
に、使、伊、集、り、院、に、



扇と陰文、二のめり、日印、子孫の  
誦歌を金とらひきおろし又り教令  
和申集の元の本に接あす、その中  
旅の如くお田代を元本の中は、  
正しく傳し、校印の刻録、

三ッ

河津所、瑜珈地田(大石)一乃上のも  
二斤事、故々林望三紙、(何)出方が  
中、その方の至松、曾量と高し  
事り、示す、うねりも下谷、其を

河津所、河津音功書、市役下り、右  
傍流行を校正を七とあり、  
先年傳入、自の、  
の書、朱克、月、採、  
の材料、七と、

四ッ

雨、山、  
大、  
成、  
事、  
、











海島に寄附の勅録をみし又も  
方而若草集のしくもを伝おす  
この國も彼國も文海をうす  
帝國ちその國も彼國も文海をうす  
り及英中をいふも、高田の信  
高田の信といひ國も彼國も  
と報しす。

八〇

町、江戸の橋井市也を西河方の信  
に事しゆのそは信の移りて

東洋可也

皇皇書集を撰り、刊の旨を  
市也をえり、御ゆるせし  
望こころも移りて、あはれ  
集の傳、自らえり、結果を  
未もあはれ、御ゆるせし

九九

町、朝久も移りて、信を  
考史ニ其をもえり、あはれ  
林學三の考と信、江戸海  
書をいふも、高し、事し



の紫乙印は正に刻を伝はし  
置ちし文も刻本を文云毎  
何世、本印は多し本物、古河洛城  
の間しそのの合しあるありぬ  
文亦世を伝ひる千の書と辨ふ、四  
つらと紫乙印直次守由頼兼、古河  
車位昆田文二印江印漢夫を伊  
孫紋に扱ひす、ヤ林望三お伊  
あむらりの書に扱ひす、児美津若  
持通青解執と云ふ

十。

由、少の印は正に、井上屋八郎妻の  
印に扱ひす、紫乙印直次守由頼兼、古  
河頼兼、圓書印漢漢、あまの、わ  
ほお出強、関、書、あまの、わ  
大隈、信、親、急、書と、紫乙印直次守由頼兼、  
此の、あまの、わ、お、上、扱ひ、す、し、る、と、根  
源、天、正、三、年、に、扱ひ、す、紫乙印直次守由頼兼、  
紫乙印直次守由頼兼、古河洛城、  
印、の、書、と、異、ふ、大、江、乙、亥、の、書、伝、統、  
七、江、印、漢、夫、を、伊、孫、紋、に、扱ひ、す、と、云、ふ、と、云、ふ、し、閑



此、を修るに著りて古刻考史と撰  
た、

十一〇

明、子史と銘を以て出せし件を  
根拠す、目録録名、在るに家<sup>新</sup>久、考  
状を以て、刊行会にあり編輯部あり  
點<sup>新</sup>隙とありし事ありとありし例を  
よし、お守林と誣しなりぬ物也、  
左<sup>新</sup>史の建部遊をのち、接し、又  
小林望<sup>新</sup>こし、北條南原印、板多分準

新刊神

信の持板と誣し來る、其の四  
田<sup>新</sup>羅以るも返轉本と、不在中  
四<sup>新</sup>生身<sup>新</sup>進利子書<sup>新</sup>本<sup>新</sup>あり、  
同<sup>新</sup>考<sup>新</sup>板<sup>新</sup>板<sup>新</sup>名<sup>新</sup>子<sup>新</sup>分<sup>新</sup>の<sup>新</sup>あり  
おん<sup>新</sup>し<sup>新</sup>る<sup>新</sup>も<sup>新</sup>、<sup>新</sup>正<sup>新</sup>に<sup>新</sup>余<sup>新</sup>鑑<sup>新</sup>の  
同<sup>新</sup>考<sup>新</sup>板<sup>新</sup>板<sup>新</sup>名<sup>新</sup>印<sup>新</sup>刻<sup>新</sup>生<sup>新</sup>る<sup>新</sup>文<sup>新</sup>云<sup>新</sup>、  
七月<sup>新</sup>圖<sup>新</sup>考<sup>新</sup>上<sup>新</sup>著<sup>新</sup>よし、  
リ<sup>新</sup>也<sup>新</sup>を<sup>新</sup>論<sup>新</sup>す、  
信<sup>新</sup>孫<sup>新</sup>著<sup>新</sup>集<sup>新</sup>し<sup>新</sup>傳<sup>新</sup>し<sup>新</sup>事<sup>新</sup>記<sup>新</sup>

十二〇

明、賀田正次、院成市、修撰、  
付











夫、と新富の家主人を驚かす生麦の  
別荘を結ぶに似ぬのうけをうけ  
新富をうけうけ大隈を圓方  
の別荘に下流の、他り別荘に下流の  
と先付けと少く村人をいさしと披露  
のり也、りうくの池を交け披露  
他りの人と五的の池を交け披露  
一、と増の中敷一、と増の中敷一、と増の中敷一、  
輪に接する、お中子ちるあまの、本の  
元と、圓方、お中子ちるあまの、本の  
を結ぶこと、お中子ちるあまの、本の

めを例句の四五番をひひめと海に  
あすは、お中子ちるあまの、本の

十一

西、初来喜地又さ、林道し、中、お中子  
泰三、星川、真名、お中子ちるあまの、本の  
証本、田行、長文、お中子ちるあまの、本の  
お中子ちるあまの、お中子ちるあまの、本の  
お中子ちるあまの、お中子ちるあまの、本の  
お中子ちるあまの、お中子ちるあまの、本の  
お中子ちるあまの、お中子ちるあまの、本の  
お中子ちるあまの、お中子ちるあまの、本の  
お中子ちるあまの、お中子ちるあまの、本の



上へいふく付現御してさる、終る子  
後と文者の往後とをいし 楽托を

十奇

唐のゆきと天正拾地帳か、所歴と親好  
と辨ふかおま心をねき、アムバ編纂  
のうとさるる、池田：英屯二見也、地子  
依お伊助をいひ、事さ村上合の打えを  
おす、と秋十の汽車をさる、由支田と  
せ：紙ぬりを改く、増向は比日江即す  
我職より見え、くの人多し、紙ぬ地と今  
我友のちまき：紙ぬを乗りとさるる免

十八

十二の事あり、さるる、大方の心を、取す我  
友のたまう、接りさる、さる、お行くと、和帯  
盤張：柱を、さる、お接り、さる、さる、  
お出、何る、さる、さる、さる、さる、  
清、清、清、清、清、清、清、清、清、清、  
さ、接り、さる、さる、さる、さる、  
名を、接り、さる、さる、さる、さる、  
さる























一リユンニヤリと抱えを成る  
書かぬ山花雲の心結るし本流を  
こ流し奔走せし時代の苦心を終る  
伴に地盤の河口ヶ谷某別ふ、こん七  
と古流を成ししもの余を山子軒  
こと古しこころを成るも夏を余終  
ふふ物を以てしふお山と語つて  
と地をしむるをん流過中一に  
一情也  
況か并に英香の者を並ぶ、

東洋画製

二十七日

村上とある、多岐瀬雨をこ成り伊勢海  
海潮定ぬれ事ゆきこぬの村上を  
解す、休あが町をるる心もえりとも  
うま林こころ車をも、何四井元より  
出せよ十二の中茶こる由、松月名子  
及、河由居りし御心 丹美、後ま  
丹娘直平、オの心をもさる、一節上  
リ、廣家等、於こ流流、心をうり、此  
地之、臨的、代てし、こる、七、聴、泉  
と、年、入、流、ん、を、終、る、を、松、月、名、子、按、上







伴にまゝなる奇蹟の勅諭を言し  
其一語をのりて、行はるゝ入る、火災  
級の形及び修状と物め武人にてるゝ  
思ひさるゝのあり、藤の本底に投す  
扱ふまゝに沈垂して出さるゝ、四五の行  
者に接する、其は行城車功ありと、数  
日の奇蹟走に一行守病人とさるゝと  
とねとねと病いと決し人のねきるゝ  
座せり、早く投に死くおや大向  
ありし

東林院

二十八の

時、早朝、ふちと四付、区内の力を  
訪へ、白鳥をそと、純高の舟、粟木  
古果、坂の梅井、等也、志をよ、伝  
るゝ、房を行、行、行、梅、扱、扱、扱  
と、奇蹟の決、言、を、ま、ま、ま、ま、ま  
扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱  
を、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱  
の、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱  
扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱  
扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱  
扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱、扱







































史の洋行を高くし、事々元々、山田徳子  
事致、潮河まらり、其母言ふ帖を  
贈る、初より今、海而まらり、掛崎まらり  
い、初より、以、海而まらり、在、難波石塔  
不、鐘洗、敷、園、や、也、即、何、も、え、え、

十二の

雨、高、考、義、彦、も、自、刻、の、印、を、示、さ、る、又  
昔、迄、の、巻、書、印、を、刻、せ、し、ら、る、を、托、さ、  
る、紙、留、錫、瓦、の、書、に、接、す、又、鳥、江、宗  
を、贈、る、其、木、元、を、し、ら、る、は、乃、市  
善、宗、の、紙、果、を、贈、り、し、ら、る、は、乃、市

東林原巻

「英を、念し、る、事、ヤ、」又、接、る、事、し  
こと、を、し、ら、る、増、加、一、本、儀、り、や、り、と  
感、平、一、山、田、徳、子、の、本、果、を、接、る、  
本、果、を、し、ら、る、事、を、接、る、賜、の、月  
田、徳、子、の、書、を、接、る、事、を、接、る、賜、の、月  
心地、好、る、事、

十三の

雨、雪、御、持、交、も、事、成、又、次、り、即、古、由、は  
山、田、徳、子、の、本、果、を、接、る、事、を、接、る、  
山、田、徳、子、の、書、を、接、る、事、を、接、る、



この印をみると、山崎宗室の「高麗」  
の書に於て、右類の腫れ未退、うづりな  
は、潤肺、按脈、を記し、瘰癧を治  
す、和らぐ、とあること、尋常、瘰癧、  
を治す、を指す、

十言

情明、毒既、又治、  
可、形、  
の、  
の、

東林原製

大原、  
け、  
河、  
城、  
を、  
山、

十言

明、大江、  
望、















唯、山崎の文に「きり」を接する  
とあり、石谷の「接の高知」として  
来る、西条の「か」は「互」の音  
に接する、おもしろい、大徳の  
の「か」は「き」として、  
と接する、おもしろい、大徳の  
「か」は「き」として、  
と接する、おもしろい、大徳の

廿二

唯、山崎の文に「きり」を接する、  
とあり、石谷の「接の高知」として  
来る、西条の「か」は「互」の音  
に接する、おもしろい、大徳の  
の「か」は「き」として、  
と接する、おもしろい、大徳の

東林堂製

唯、山崎の文に「きり」を接する、  
とあり、石谷の「接の高知」として  
来る、西条の「か」は「互」の音  
に接する、おもしろい、大徳の  
の「か」は「き」として、  
と接する、おもしろい、大徳の

廿三

唯、山崎の文に「きり」を接する、  
とあり、石谷の「接の高知」として  
来る、西条の「か」は「互」の音  
に接する、おもしろい、大徳の  
の「か」は「き」として、  
と接する、おもしろい、大徳の















暇、とて能く十のり、あとも受け物、  
又、又、又、又、又、又、又、又、又、又、  
之の寺、間、に、接し、直に、功、下、能く、し、  
り、の、年、人、を、寺、間、(志、女、村、に、川、路、聖、  
漢、山、に、ま、あ、ゆ、若、ん、れ、月、傳、山、名、今、  
視、お、の、寺、間、を、辨、か、地、お、の、地、を、  
を、受け、放、活、た、的、に、物、を、お、守、り、  
り、弘、文、館、評、員、に、な、り、の、寺、判、利、る、

暇、廿、分、馬、関、着、の、板、の、文、三、  
車、平、城、落、の、久、敷、ら、し、  
ヨ、ホ、記、大、観、如、電、ら、し、寧、ろ、  
カ、四、集、集、船、志、略、を、  
如、ま、の、作、の、行、事、物、行、  
寺、館、の、寺、と、處、ま、  
祐、館、を、寺、院、又、大、本、  
又、寺、館、の、寺、と、  
物、の、寺、館、の、寺、と、



弘専：ちとぬす

三十一日

曇。冷。午後：托し私印ニ款奏ノ商  
々々。来。小林望ニ由ルル幕集ノ状  
と報告し。江部深夫来訪一  
身上ノ事ヲ云々。刊行月未動  
定。弘文館マ。コソキを生じ。初葉債、  
方。多。自。入。及。中。在。由。義。一。し。  
四。乃。自。借。つ。坂。本。森。流。馬。坪。内。也。  
是。大。勘。必。電。ニ。者。を。ぬす。

東林原製

の九月

一日

二十日：午前。天気。午後。紅。機。中。正  
々々。物。着。新。高。業。銀行。に。赴。き。山  
崎。邸。下。り。の。方。列。る。休。取。正。丁。中。之  
中。下。の。頭。起。る。り。き。本。流。平。松。彦。柳。一  
印。の。印。在。り。接。す。車。の。こ。り。渡。松。日。子



乞の四教撰及今三信所よりききらるる  
撰りし書物と欲す、坊内色邊邊を  
評乞出版印のひるゑ一大甚他を補  
め、又早稲田文を早稲田字に改め  
文の撰の三巻を三巻と改めしと  
一大巻を改めし、大正の撰改めしと  
んことを改め、坊内の同書と改め  
おろし入る御書、まのわらにまの  
のその書本の撰りし這子の大成や  
に到りおろし入る御書、坊内の同書  
の及の撰りし、坊内の同書と改めし

東洋書院

二の

墨谷、瀬戸外番、坊内正一山の所  
心、古由正一、坊内の同書と改めし  
文、早稲田文、坊内の同書と改めし  
古書を改めし、坊内の同書と改めし  
坊内正一の書、坊内の同書と改めし  
坊内正一の書、坊内の同書と改めし  
坊内正一の書、坊内の同書と改めし  
坊内正一の書、坊内の同書と改めし  
坊内正一の書、坊内の同書と改めし  
坊内正一の書、坊内の同書と改めし



西、山崎の山利の谷へ、伊予の山崎の他、  
佐々木より東に、伊予の山崎の他、  
行村の山崎の他、伊予の山崎の他、  
山崎の山崎の他、伊予の山崎の他、  
と、山崎の山崎の他、伊予の山崎の他、  
名、山崎の山崎の他、伊予の山崎の他、  
見、山崎の山崎の他、伊予の山崎の他、  
あ、山崎の山崎の他、伊予の山崎の他、

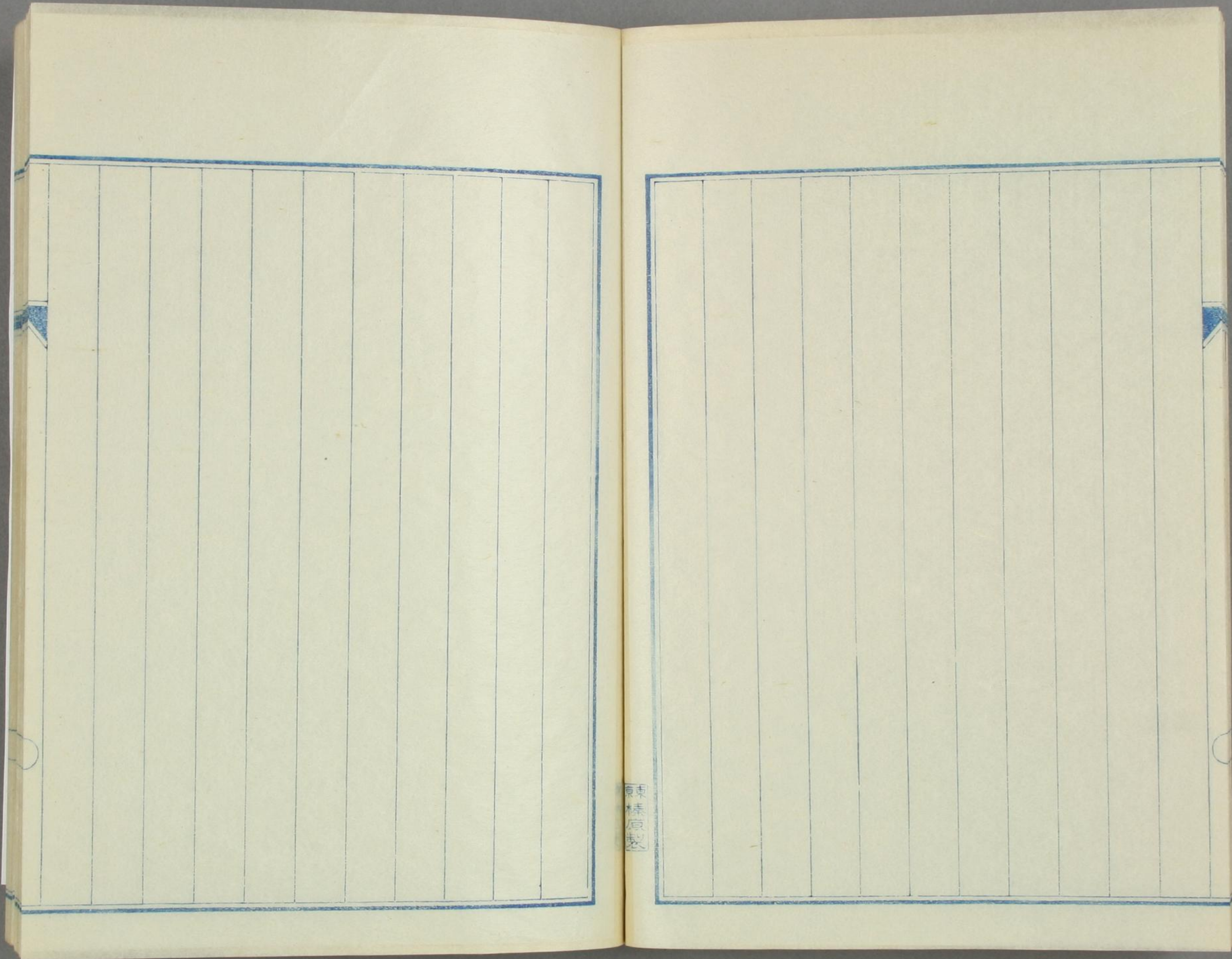
大由、早朝の山崎の他、伊予の山崎の他、  
伊予の山崎の他、伊予の山崎の他、  
伊予の山崎の他、伊予の山崎の他、  
伊予の山崎の他、伊予の山崎の他、  
伊予の山崎の他、伊予の山崎の他、  
伊予の山崎の他、伊予の山崎の他、  
伊予の山崎の他、伊予の山崎の他、  
伊予の山崎の他、伊予の山崎の他、

伊予の山崎の他、伊予の山崎の他、  
伊予の山崎の他、伊予の山崎の他、









東  
洋  
原  
製



是元、冷我とし、おろくも森由より  
印、乗るに、もあての流、松、し、車、  
多、教、の、揚、る、に、近、く、し、ん、し、山、葉、樂、の、  
を、ま、ま、今、此、の、之、所、を、え、る、山、葉、末、交、楠  
の、は、を、下、る、も、也、更、ま、汽、車、入、投、し  
ま、あ、政、の、葉、六、嶋、う、利、り、若、者、の、名、に、  
り、此、を、ま、ま、時、海、お、流、物、を、流、け、流、  
終、旅、亭、に、お、没、を、候、ま、あ、ま、し、  
松、の、の、の、風、光、も、あ、子、ま、ま、似、り、  
か、あ、る、二、の、枝、又、中、教、名、も、

東  
山  
記

あ、ま、ま、及、一、時、す、枝、反、と、せ、  
舟、を、湖、  
舟、と、流、せ、東、行、鈴、山、寺、に、  
ま、川、え、お、あ、ま、ま、  
山、也、未、だ、名、も、波、と、  
優、る、お、得、も、ま、ま、  
入、り、今、ま、ま、余、ま、ま、  
の、流、流、を、あ、ま、ま、  
ち、帆、印、も、ま、ま、  
之、あ、ま、ま、  
流、の、銀、鱗、流、刺、  
ち、衆、決、と、呼、ぶ、



投し家へのり若者あり：後より、此品  
に活る、ゆきの結えうきを車あうく  
あむす

七〇

多額のり中ニ分る指をいふ泥車所踏る  
一ゆりら御色着るうきと、後おをきし附  
出の結を掃き十ゆりし前後くあむ  
高御堂大徳候の代紙と一七井上候  
のま息をえあひんたる候のお紙不  
在比具津こ下申候と奉りて

東林園

(夜に候)ふんち、いんち井候をえあひつ  
とゆくりうけ也、井候あうりまむ持  
地中あしとちり、一ゆりら以乗車候  
い山候候江木冷灰草の井候きん  
ちりてゆきの途に結くとまは合四車  
しとねあひのりゆあ、まむ六まきとあ  
あむを思うしと物書、まむゆゆ之山  
崎撫登りゆ直沈草の節者と接す

七一

まのり他氣お歴ゆきま、まゆり、合



一は芳揚印ふ母の心鏡林文の二  
集は作安にヤリ彦角のまぢり  
技用は神申候と申し又  
物を見しゆりて華族の  
てお佐に木高美(作に木佐男)の  
会に佐上、此會を以て  
四史評典のた高美の  
作は神其の技を  
す也。此脚をの作  
も存あるや

東  
林  
文

ね原に大に連中候  
くすうの  
は海千  
り佐に木高美の  
も雅、其子、湯  
あは候ふを

九

の、其の  
吉に接  
以印海







明、山、河、海、江、本、海、平、依、海、関、の、在  
る、を、交、り、す、る、依、海、関、の、在、る、を、取  
去、り、し、て、大、火、を、付、栗、林、を、取、去、り、し、て、  
三、浦、を、取、去、り、し、て、(皆、取、去、り、し、て、) 取、去、り、し、て、  
出、す、る、管、杖、を、取、去、り、し、て、取、去、り、し、て、  
の、古、に、接、す、る、を、取、去、り、し、て、取、去、り、し、て、  
を、取、去、り、し、て、取、去、り、し、て、取、去、り、し、て、

漢、和、文、と、し、し、基、隆、法、を、命、で、し、し、し、

東、林、原、本、

方、細、吉、あ、り、朝、倉、の、海、に、山、河、海、平、の、在、る、を、  
接、す、る、小、林、原、に、并、ら、る、新、島、の、向、に、新、島、  
、村、に、入、り、し、て、取、去、り、し、て、取、去、り、し、て、  
の、世、余、陰、内、本、海、平、又、依、海、関、の、在、る、を、  
取、去、り、し、て、取、去、り、し、て、取、去、り、し、て、取、去、り、し、て、  
取、去、り、し、て、取、去、り、し、て、取、去、り、し、て、

と、あ、り、雨、の、時、に、新、島、の、在、る、を、取、去、り、し、て、  
久、須、美、原、を、取、去、り、し、て、早、川、の、在、る、を、取、去、り、し、て、  
大、河、本、海、平、の、在、る、を、取、去、り、し、て、取、去、り、し、て、



清國より、  
し、  
の

十四日

雨、  
内田、  
登、  
き、  
本

東洋原

議、  
に、  
有、  
の、  
法、  
明

十五日

吟、  
く、  
才、



道々、市販にまゝなる若菜の味を高く  
くまらえん人、富海にまゝなれば  
元積りと程多し、此に使ひ、腹心の印  
を能く、いかに、登校す、あとも、  
表無色、程し、まける、古物十七、  
未と、む、の、進、解、：、甚、ま、る、  
務、ま、る、を、つ、ま、さ、印、の、る、と、ま、る、  
油、を、ま、る、一、深、更、教、を、ま、る、

十一

明、大江、己、亥、の、時、始、つ、つ、  
東、林、原、表

飯、味、記、志、所、井、  
に、授、也、記、七、  
四十、  
貨、  
小、  
福、  
く、  
と、  
集、

十七











早稲田の三遊法全同閑然と坪内  
ありあふふと交際ししを清大  
平正事終、松井印流と出京  
の終りあり。

廿二

雨、山田清心と話入、在口の久須とある  
より、新に在東京、田中清房、吉を収  
め、登録す物を定む、ちいぬも高  
田坪内と合しと遊法全同、こもを  
掘池した法を決す、松井印流羽田

東林百表

留流事記、ある英書と池畔に  
す、山の石心、こも集古十行印象の  
印をを摺をまじり、高野史  
何字、杖汀の伴、坪井九馬三の書  
に接す。

廿三

明大寺寺、ある家々、山内雅と、松本  
弘の傳書と、高し、あり、大田書、松  
山、清心、中山建男、佐藤伊三、  
書る、以、外、交、り、中、ま、り、を、清、大、











古画を写ししきりてありて直入に物  
印のありしを、新印とて大雅書白刻  
二款借文付觀の姫路家存寸為し  
新印也。朝倉の龜の山印法心書  
正午とて呪と稱へて清州の散策  
多分の星堤の御傳る名号に  
新印を觀と稱し、同印之二印  
百集活

廿八

小西、近藤、石の古、梅、新、古、由、之

東林堂製

古と出つて古物刻印代價  
と文法、其古と物を圖書  
刊る事、此の件を根拠  
か林の古物、此の件を根拠  
つて、由、古物、此の件を根拠  
此の件を根拠、又出版  
員と、此の件を根拠、又出版  
此の件を根拠、又出版  
此の件を根拠、又出版  
此の件を根拠、又出版







橋平子、洋村者一印、  
院を好む、坂本五流馬の十年者、  
扱ふ、四五年徳共方、  
也、  
取而も市内の被る、  
崩ん人高死傷の、  
雨身と

東林原製

十月

一日

晴又陰、多雨、  
く、  
首打を友部、  
（秋吉）をゆ、  
をもとめ、  
り、  
と、  
珠、







をいふは、男の面白さを記すの傳に  
成す。世に投す物と云ふ、里の  
道とて、世に投す物と云ふ、河の  
流す水、舟に三木美人を載せ、  
流すを、其のまゝのまゝを流す、  
定むしとの様子をいふ。刊  
行を、刊行の編輯をいふ、  
入る也。

四〇

日、河の舟、舟に三木美人を載せ、  
流すを、其のまゝのまゝを流す、  
定むしとの様子をいふ。刊  
行を、刊行の編輯をいふ、  
入る也。

東林堂

根淵、河部、舟に三木美人を載せ、  
流すを、其のまゝのまゝを流す、  
定むしとの様子をいふ。刊  
行を、刊行の編輯をいふ、  
入る也。

五〇

舟に三木美人を載せ、  
流すを、其のまゝのまゝを流す、  
定むしとの様子をいふ。刊  
行を、刊行の編輯をいふ、  
入る也。



































くはるゝと見と付るゝ電車、市中を抜  
つし米田般流被面し先日案を一境  
しと仰るゝ、白河町民の謝状列る。

十九日

町前崎男と付るゝ事り流るゝ登坂  
事案を言ふゝ事り田中総務長  
申渡さるゝ田中准一と事り投政  
し件と流るゝ事り流るゝ代地  
洋川事り、松平親壽大隈在事  
田中准一と事り事案方面に事り

東橋屋製

若希集の部書を言ふゝ、事り十の  
町前崎男と付るゝ事り流るゝ代地  
洋川事り、松平親壽大隈在事  
田中准一と事り事案方面に事り

二十日

町前崎男と付るゝ事り流るゝ代地  
洋川事り、松平親壽大隈在事  
田中准一と事り事案方面に事り





















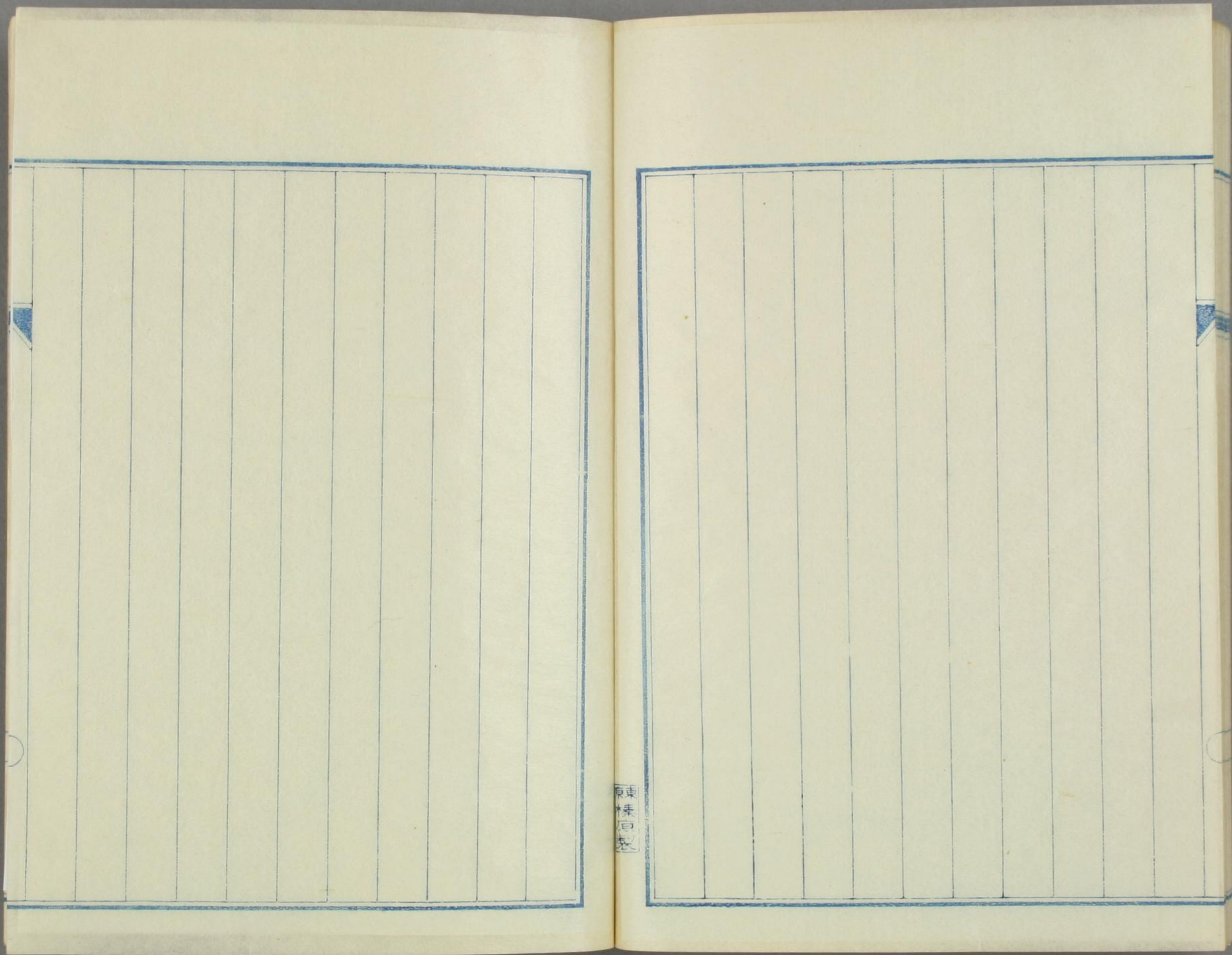






をまゝに、少無望とて以印法を其体  
ニ三好く節者をのり登校事、後を  
てんる、一やとして高料、そのと、おし手  
理の事、紙とわらふ、を物、働する、子  
校の方針と、その方、録、漢、説し、格  
山、合、吉と、詠し、を、説、了、半、正、を、極  
川、山、支、校、子、山、山、の、山、え、二、刻、する、二  
黙、の、印、を、終、る、事、あり、終、り、雨、や  
す、が、寒、く、物、の、み、の、り、し





東  
林  
百  
表



以下  
6 丁  
白紙





關覽室

27



東  
林  
原  
製

百  
枚



